

A 幼児の運動遊び（幼稚園・小学校）コース

花巻市立花巻小学校 教諭 佐藤 孝文

【部会テーマ】

幼児期運動指針に基づいて、発達の段階に即した幼児からの体を使った遊びを通して、

①運動遊びの楽しさを味わう

②適切に幼児期に育みたい基本的な動きを身に付けることができるようにするための指導の在り方の検討

黒字・・・伝講

赤字・・・伝講内のキーワード

緑字・・・自分（佐藤）の考え

1 幼稚園教育の基本

幼児期の教育は、（中略）幼児期の特性を踏まえ、**環境を通して行うものであることを基本**とする。次に示す事項を重視して教育を行わなければならない。

- （1）幼児期にふさわしい生活が展開されるようにすること
- （2）**遊びを通しての指導を中心**としてねらいが総合的に達成されるようにすること
- （3）幼児一人一人の特性に応じ、発達の課題に即した指導を行うようにすること

その際、教師は、幼児の主体的な活動が確保されるよう幼児一人一人の行動の理解と予想に基づき、計画的に環境を構成しなければならない。この場合において、教師は、幼児と人やものとの関わりが重要であることを踏まえ、**教材を工夫**し、物的・空間的環境を構成しなければならない。また、幼児一人一人の活動の場面に応じて、様々な役割を果たし、その活動を豊かにしなければならない。

＜幼稚園教育要領 第1章総則

第1 幼稚園教育の基本＞

2 教育における「遊び」とは？

遊びとは・・・

自己決定と自己有能さの認知を追及するために、**内発的に**動機づけられた状態

（1）自己決定的に行動すること

自分らしく行動することであり、自分らしさを育み、個性を育て、自立した人間を育てること

（2）自己有能さの認知を追及すること

個人が潜在的にもって生まれてくる様々な可能性を実現させ、自己の能力を向上させること

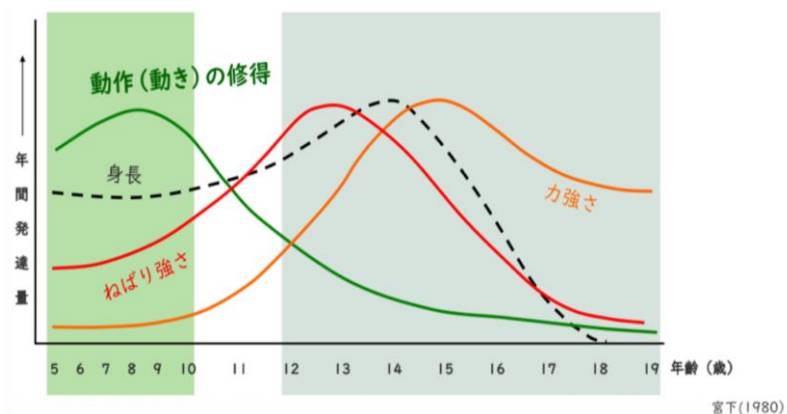
『子どもたちに全てを任せる』と、ねらいを達成することは難しい。（遊び）

『子どもたちに気付かせる・子どもたちから引き出す』と、ねらいに近づくことができる。

（教育的遊び）

『子どもたちに気付かせる・子どもたちから引き出す』ためには、教師の教材の工夫と幼児理解・児童生徒理解が重要になる。

3 体力の向上



幼児期は多様な動き（運動コントロール能力）が高まりやすい時期である。

4 多様な動きとは？

多様な動きの2つの意味

①レパートリーの多様さ

色々な種類の動き（基本的な動き）を幅広く

- ・歩く ・走る ・打つ ・跳ぶ
- ・蹴る ・投げる ・転がる 等

②バリエーションの多様さ

基本的な動きの変化

A 空間的变化

（上下 左右 斜め 前後 等）
（直線的、曲線的 等）

B 時間的变化

（速く～ゆっくり）
（短時間～長時間）
（リズムカルに）

C 力量的変化

（弱く～強く）
（一定の力で）
（力に変化をつけて）

D 道具による変化

（ボールを使う 1個？2個？）
（新聞紙を使う 1枚？形状は？）
（フラフープを使う）

E 人数による変化

（2人で？3人で？4人で？）

①×②＝多様な動きがたくさん

<演習>

『歩く』のバリエーションを考えて、実践してみましょう。いくつかのバリエーションができるでしょうか？一緒に参加されている先生方の動きも記入して、『歩きマスター』になりましょう。

①歩く

②

A 大またで歩く

B

C

D

E

5 動きを引き出す環境の工夫

ルールが変わると、楽しさと動きが変わる。

<演習>

① ストレッチ

- ・静的ストレッチ
- ・動的ストレッチ

② 鬼ごっこ

- ・2人1組で
- ・道具を使って
(コーン、フラフープ等)
- ・チームで

③ 動物になりきろう

- ・くま歩き
- ・わに歩き
- ・?歩き

④ 新聞紙を使った遊び

- ・2人1組で
- ・みんなで
- ・新聞紙の形状の変化

⑤ 縄や風船を使った遊び

- ・によろによる跳び
- ・こんぺいとう
- ・風船ボールを作ってみよう

6 運動が苦手な子や

意欲的ではない子への指導の工夫

(1) できることから始めて、できることの質を上げていく

- ・動きの多様性を確保し、自分のペースで多様な動かし方を経験できるようにする。

(2) 思わずやってみたくなる(動いてみたくなる)よう工夫

- ・イメージ(絵本、音楽、ものまね等)をうまく活用する。

(3) 興味をもったこと(興味をもてそうなこと)で自信をもたせる。

- ・運動に対して否定的な態度をもつ子が動きを繰り返し行おうとしている場合には、価値づけを行う。

(4) 間接的に活動に関わることでできる機会を設ける

- ・活動に対して、他の子と同じように参加しなくても、その活動に関わる機会(見る、応援する、役割を与える等)を工夫することで興味をもたせる。

7 本日のまとめ

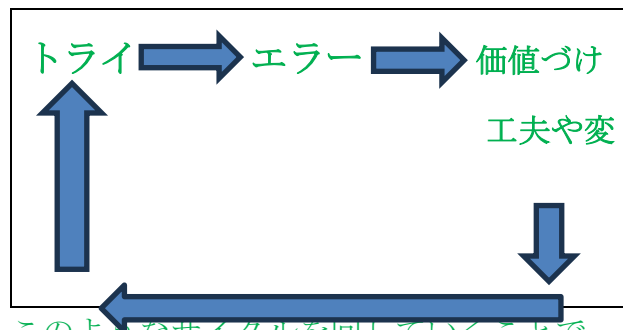
幼児期に「遊び」を通して学んでいることは、以下の3点である。

①知識及び技能の基礎

②思考力・判断力・表現力等の基礎

③学びに向かう力、人間性等

小学校1年生は「ゼロからのスタート」ではなく、全校種で運動遊びや運動に「遊び」の要素を取り入れることができると考える。教師のねらいのもとに、子どもたちが夢中になったり、思わずやってみたくなったりするような教材の工夫、子どもたちの動きや発言を引き出すための教師の働きかけ(幼児理解・児童生徒理解も含める)が非常に重要である。「遊び」を指導することで、運動遊びや運動の遊び要素がより高まり、子どもたちが自己決定的に行動する場面を多くすることができる。



このようなサイクルを回していくことで、運動が得意な子はもちろん、苦手な子も運動を楽しく取り組むことができる。また、大人になってもスポーツや運動に親しみたい(する・見る・支える・知る)という子どもたちが増えていくのではないかと考える。